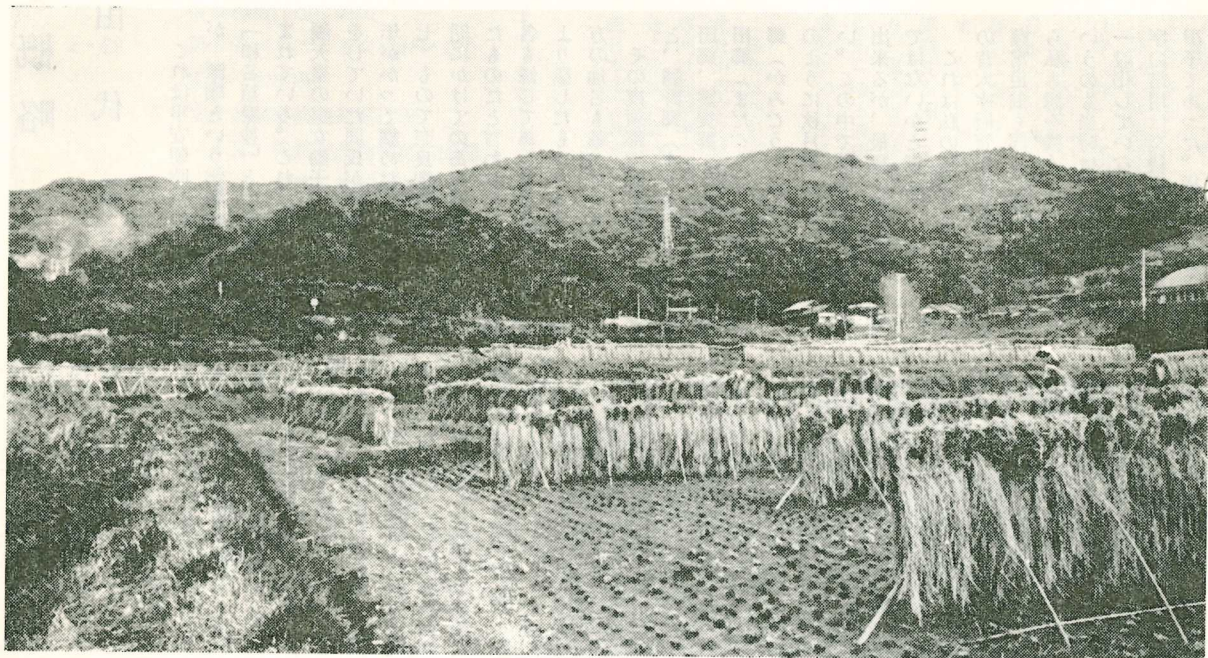


北九州市の文化財を守る会

会報

No.14 50.12.1

発行 北九州市の文化財を守る会
北九州市小倉北区内1-1
北九州市教育委員会文化課内
電話 582-2389



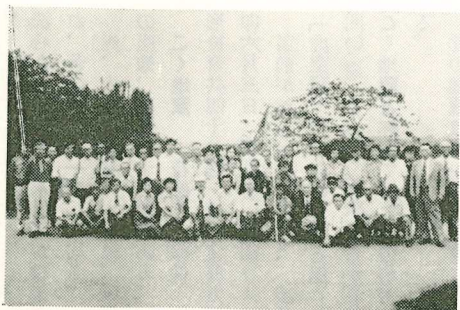
花房山

花房山城跡は若松区畠田にあって、その昔入口は東二島にあり、畠田は裏山になって、道なき密林地帯であった。この城跡の麓に、狩屋の地蔵と、小坂の地蔵とが祀られてある。花房山城は西暦一四二〇年香月盛経に攻められて落城したが、落城前に城主麻生家は、家臣と侍女に命じて、一人娘を裏山から逃して、追手の手にかかるぬ処置を講じた。城の裏面は道なき密林地帯で、夜をとおして下山したが、夜明け近くようやく麓にたどりついた。随行の家臣たちは、此処に二軒の農家があったので、一軒の農家の納屋にあったハンゴ(牛馬の飼料桶)を姫に冠せて、家臣たちは山中に逃げこんでいた。しかし不幸にも姫は敵に捕えられてしまった。これは桶の外に僅かながら下着の緋縮緬の裾が出たために、何なく発見されて其処で追手の刃に倒れてしまった。家臣たちは涙を呑んで小川の淵に集まり、姫のあとを追って自刃した。ここに建てられたのが狩屋の地蔵で、大庭一族はこの姫のあわれな最後をくみとって供養をつづけているが、庄屋大庭一族では赤色の草花は栽培しない風習が今に残されている。これは姫の赤色の裾模様が桶の外にはみ出たため、命とりになった事からである。また、小坂の地蔵は天文の初期西暦一五三八年頃畠田村大庄屋大庭の子息と二島村の農家の娘とが不義を重ねて、都合により二人は処刑されたが、これより先き両家で話しあい二人を長州路へ逃す計画をたてた。二人は真夜中入通りのないカクイ原という淋しい深山を越えて、人皆寝静まった脇の浦の漁村に着いた。寝しづまった漁夫の家を次ぎ次ぎに訪れて長州の小串付近の海岸に船を出してもらいたいと嘆願したが、折からの時化で、誰も応じてくれなかった。二人は詮方なくひとまず引き返したが、間もなく処刑された。両家では二人の冥福を祈るため、ここに地蔵尊を建立した。これが小坂地蔵で毎月二十四日を縁日として供養をしている。今、小坂地蔵は県立若松商業高校の敷地となって移転している。(若松区支部長 中山 司)

私の思い出

若松区 中野 義男

十年一昔と言う言葉通り、私の三男坊が中学三年の時、近所の友達と当時若松郷土史会の主催で国東一石仏見学バスハイイクに参加帰宅しての話聞き、もともと私も好きだったので、それでは私も入会しようと、その当時の若松図書館長渡辺隆造氏の指導にて、入会したのが初まりで、それから十幾年、ほんとうに一昔の事の様です。其後会員諸氏の熱心な活動もあって、数知れないバスハイイクに参加させて頂きました。当時は、大分、山口、福岡各県連合にて、お互いに招待しあって、会の発展に努めて居られたと思います。大分県の招待にて、臼杵石仏の外



第十回 文化財めぐり(秋月)

県内の史跡を見学して、臼杵城跡にて盛大なもてなしを受け、お土産品まで頂いて帰宅したこともありました。

其の後、明治百年を記念して、山口県の招きにて、長門周辺の史跡など、当時下関図書館長藤田氏の案内にて、個人では見られない所まで見学させて頂き、赤間宮の会場にてフグ料理等で大変なもてなしをうけた事。先月号にて島津氏の投稿された松浦の史跡を尋ねてと、数多くのハイイクに参加させて頂き、其後北九州市の文化財を守る会に合併今日にいたりまして、萩(第七回)、太宰府(第八回)、求菩提(第九回)、秋月(第十回)、区内(第十一回)と、バスによる文化財めぐりに同行させて頂き、今後も私の健康のゆるす限り参加させて頂き度いと思っております。

のこされた昔時の文化史跡を大切に保存して、一木一草自然を守る心に変りない事をお願いしまして、まず私の思い出等を投稿させて頂き、文化財を守る会の発展を祈り度いと思ひます。

太鼓と鉦と笛と踊

八幡西区 山崎徳次郎

古い巨大な木や、若い木々に囲まれた神社があり、天文とか、慶長、寛永、享保、嘉永などの文字がきざまれた鳥居の向うに、遠く、新興住宅地が見えます。大鼓の音、鉦の音、笛の音が、古風な衣裳を着た数十人の男達の「楽」の演舞と共に、異様な興奮を呼んで、「楽」の演舞を囲むような形でみている老人、若い人々にも、数百年の昔と同じ興味が湧き起っているに違いないと思ったりしました。

これは、今年の五月五日の沼楽、八月二十四日の石田楽、九月二十四日の道原楽などの記録映画撮影の時に、私が感じた印象であります。又、八月十五日の木屋瀬盆踊り、十月の横代神楽、楠原踊の撮影時にも、夫々の無形文化財が、数百年の昔から、夫々の地域に現存して、今も、祭事、祝事、或は年中行事として、地域の人々の生活に密着している事実を思うと、これらの無形文化財の意義と価値の貴重さは、誠に大きく、且、子孫への遺産として素晴らしいものであることを、改めて意識させられました。

私は、十数年前、愛媛県の宇和島で、「子鹿踊」という踊を観たことがあります。これは、元和元年より仙台的伊達政宗の長子秀宗が、宇和四郡を統治した折、仙台にあった「子鹿踊」を宇和島に伝えたと言われているもので、少年が六・七名、角のある鹿の頭を頭上につけ、彩色豊かな衣裳を着



道原楽撮影

て、小さな太鼓を夫々が前に吊り、笛の囀と共に踊り、時々少年達の唄声も加わっていました。踊りは子鹿の動きに似て、可憐な風情のものでした。

また、或る時、佐渡の相川に一夜宿泊の折、地元の立浪会という佐渡民謡保存会の方々が「佐渡おけさ」の踊を観せて下さいました。この時の踊りは、佐渡の島を囲む荒い海の「波」を象徴的に踊る型にとり入れたものであると聞きました。この踊の線の美しさは美事なもので、都会にある現代流の舞踊の形にも美しいものはありますが、この時にみた佐渡おけさの踊は、その素晴らしさを今も忘れずに覚えているほどです。これらは、伝統というものが伝える「歴史」が、言葉では言い尽くせない佳さを残していることを私に

教えてくれました。

現代は科学の進歩により、人間社会から宇宙に至るまで、未知の分野が次々に解明されつつありますが、同時に又、科学の進歩と共に、科学では解明出来ない不可解な分野も発見されています。このようなことが人間社会の実像とも云えるのですが、人間社会の過去が、本来への貴重な出発点とも云えることを考えますと、有形、無形の文化財は、私達に一層重要な遺産であるわけですね。

文化財は、私達の日常生活の中で、直接目で見、耳で聞き、体で感じなければどうという性質のものではないだけに「その存在」を、可能な限り保存したいものです。

(注) 文中の「記録映画」とは、市の今年度委託事業である指定無形民俗文化財の記録映画のことです。なお、一般公開は五十一年度の予定です。

事務局だより

◇会報十四号ができましたので、お届けいたします。◇お忙しい中、原稿をお寄せいただきまして方々に厚くお礼を申し上げます。◇秋月の史跡めぐりの記念写真をご希望の方は、事務局までお申込み下さい。(代金は一枚六十円)

秋月の歴史概略

田代政門

秋月という地名について

秋月という地名は何時頃から呼ばれるようになったものであるか。又、どうしてかく呼ばれるようになったか。ということは私の若い時からの関心事であった。それ以後次第に解ったことは、日本全国に二カ所しかこの名称の土地はない。しかも他の一カ所は四国の徳島県であって、その後私の調査では当地とは何の関係もないということが解った。

これは平安朝時代の中期になるが、源順という学者の手によって「和名類聚抄」という物名集が生まれている。これは当時六十代醍醐天皇の皇女勤子内親王のご進講をしていた同氏が承平元年から七年かかって纏めた(九三二〜九三七)もので奈良朝後期から平安中期にかけてのあらゆる物名を集めたものだと言われている。勿論地名も録してあって、当時の太宰府より徴したものであろうが、当地方の地名も載っている。

もともと当地の名称は次のような変遷を経ているようである。一番古いのは日本書紀卷九(神功皇后本紀)に「荷持田村に羽白熊鷹といふ者あり」とあり、これを神功皇后が撃ち滅されたという記事がある。従って三世の頃には荷持田(のとりだ)村と呼んでいたらしい。

その夜須郡六郷を挙げてみると、鱸野郷(すずきのごう)、栗田郷、雲提郷(うなでごう)、馬田郷(まだごう)、川島郷、賀美郷(かみごう)となっている。このように秋月郷という地名はない。この中で前記五郷は凡そ類推出来るが、最後の賀美郷が当地域ではないかと考えている。

それから七八百年の間空白で好資料を発見し得ないでいる。しかし白山(古所山)の頂上には修験道の道場があり、麓には三十六坊があり、これが秋月氏の古所山城を築く迄続いたと言いつづけているので、私はその方面に志向をもちたいと思っている。

これは私の独断ではなくて、その昔太宰府管内志をのこされた伊藤常足翁も同じご意見のようだから私も意を強くしている。それと今でも当時は漢字が輸入されて一般化していなかった。そして漢字の常用は高級官吏か高級家庭の男子であった。従って一般の社会



古所山の遠望

から生まれてくる地名や物の名称は表音文字であった筈で、それを漢字で書きあらわすには当て字であったに違いない。かく考えてくると、賀美は当て字で神や上に通ずるもので、下流の人々は川の上流にある当地域をこんな呼んだのではないかと私は考えている。ところが前記の和名類聚抄が書かれて六十年後の十世紀の後半に即ち九九二年(正暦三年)に次の太宰府符が筑前国司に出されている。「九月二十日太宰府筑前国を、検田使を宮崎宮塔院領秋月庄に入勘せしむるを停めしむ。(原文は漢文)そしてこの後に、

同庄は天慶元年に庄園になったのだが、その後五十余年は入検をしなかった。しかし庄家の人々が、他より災いをうけているという訴えをうけたのでかく裁定をしたと書いてある。恐らくこの文書が、秋月という名称を書いた一番古い文書であろうと思われる。従って約千年余以前になる。

武家制覇時代

私がこの標題を掲げたのは、建仁三年(一一〇三)に原田種雄が秋月庄に移ってから、次の黒田長興が引き続いて秋月五万石の領主になって明治二年の廃藩置県を迎える迄の約六百六十年余が、各々の武家政権の中核であったから言うので、以下その秋月氏、黒田氏の推移を述べんが為のものである。

最初秋月氏から述べてゆくと、もともと秋月氏は漢の高祖の遠孫だと言われている。後漢の後裔阿智王が魏の乱を避けて一族と共に応神天皇の御代に帰化した許され厚遇された。後に大蔵を建れる時に主輪(しゅや)を務めたので、

朝廷より大蔵の姓を賜わって大蔵氏を名乗った。天慶四年(九四一)に藤原純友が瀬戸内海を糾合して、太宰府を襲い九州を制して黒崎に本陣を置いた。この時京師よりは追討軍が差し向けられたが、長官は右近衛少将小野好古で、副長官として大蔵春実が選ばれた。この叛乱が鎮定された後に春実は、恩賞として太宰府大監(たいかん)になり征西將軍に任ぜられ九州の兵馬の権を握った。最初櫛城(きのしろ)に居たが、後に原田に住んで原田氏を名乗った。

秋月に移った種雄は春実の七代目の裔である。又、原田氏は代々平氏の下にあったので、壇の浦に平氏が一敗した後は、海中より助け上げた安徳幼帝を奉じた平氏の残軍は太宰府に頼り、これを原田種直が自邸に庇護したとも伝えられている。そんな理由で原田種直は鎌倉幕府の頼朝將軍に捕えられて鎌倉に監禁されて、弟の種雄が原田の自邸にいた。

源頼朝が將軍に在位九年で死んだ後、二代將軍頼家が立ったが、その第一年目に梶原平三景時は反乱を企てた。そして九州にいた自分の与党である武田兵衛尉有義に兵を鎌倉に進めるように秘令を出した。それを察知した種雄の機敏な処置によって、事は未然に防がれ梶原景時は正治二年(一一〇〇)

この天文年間の鶴岡八幡宮の社頭再興は、地元の鎌倉大工をはじめ奈良大工・京大工・伊豆大工・玉縄大工(現在の鎌倉市大船町)など各地の大工集団が共同で造営に参加しているが、年頭の新始は「恒例」として、鎌倉大工衆だけで行っている点は興味深い。

このことは当時の大工集団が職場の確保をめぐる、かつその営業独占権である「大工職」をめぐる激しい争いを繰り返した時代であったから、それだけにかかる祭儀を通じて職場の優先的な確保や大工集団の団結がはかられていたのではなからうか。

このような推測が許されるならば、中世の人々は新しい時代を遅く生きながらも、一方では古い

ものをあわせ持つことにより「和」を保っていたことになる。今日の建築技術の近代化は、もはや「神」の加護を必要としないのかも知れない。確かに、近年の日本人は過去との断絶を美徳だと信じてきたきらいがあるが、いま、ここで滅びつつある古式の建築礼を通じて建築界をふり返り、過去との連続性を回復するのにもあらゆる意味で、現代人共通の重要事ではあるまいか。

(筆者は西日本工業大学助教、北九州市文化財調査委員会委員、専門は建築学で特に建築史、技術史に造詣が深い。近著に「増訂図説日本木工具史」がある。)

昭和49年度の会のあゆみ

- 5・18 役員会、総会開催
- 6・1 会報 No.8 発行
- 6・23 第7回バスによる文化財めぐり実施(萩)
- 8・2~3 文化財セミナー開催
- 9・1 会報 No.9 発行
- 9・14 緊急役員会開催(加瀬副会長を会長職務代理に選出)
- 9・29 第8回バスによる文化財めぐり実施(太宰府)
- 11・1~6 文化財保護強調週間行事
 - 4日 天然記念物平尾台清掃
 - 6日 講演と映画の開催
 会員に漢唐壁画展招待券配布
- 12・20 会報 No.10 発行
- 3・31 会報 No.11 発行

催物案内

ドレスデン美術館所蔵古伊万里名品展

とき 5月25日(日)まで、9時30分~17時30分
ところ 福岡大博覧会会場内、ドレスデン美術館(福岡市大濠公園、舞鶴公園一帯)
入場料 博覧会入場料(一般1000円、高校生600円、中学生500円、小学生400円)に、一般400円、高校生200円、中学生150円、小学生100円が必要。

内容 ドイツ民主共和国(東ドイツ)との国交回復を記念して開催されるもので、ヨーロッパ屈指の美術館である東ドイツのドレスデン美術館所蔵の古伊万里約120点が展示される。

第5回北九州市ファミリー劇場公演

とき 5月19日(月) 門司文化会館
5月20日(火) 若松文化体育館
5月21日(水) 八幡市民会館
5月22日(木) 戸畑市民会館
5月23日(金) 小倉市民会館
入場料 昼午後2時30分・夜午後6時の2回300円(大人、子供とも)
内容 カラーシレット(花さき山、小さな青い機関車、つのぶえのうた)
出演 劇団「角笛」
主催 北九州市教育委員会

近郊の資料館紹介

求菩提山(標高七八一メートル)のふもとに山岳宗教関係の資料を集めたユニークな資料館として去る三月一日から正式に開館。昨年十一月に仮開館しましたが、展示物の整理、防火、防犯施設の整備のため一時休館していたもので

交通 西鉄八屋バス停から求菩提山行バス乗車、終点登山口下車、徒歩十分。
開館 九時三十分~十六時
休館日 毎週月曜日
入場料 無料

電話 〇九三〇二四・〇〇〇四
交通 西鉄与原バス停下車、徒歩三分。
開館 九時三十分~十七時
休館日 毎週月曜日
入場料 無料

求菩提山(標高七八一メートル)のふもとに山岳宗教関係の資料を集めたユニークな資料館として去る三月一日から正式に開館。昨年十一月に仮開館しましたが、展示物の整理、防火、防犯施設の整備のため一時休館していたもので

交通 西鉄八屋バス停から求菩提山行バス乗車、終点登山口下車、徒歩十分。
開館 九時三十分~十六時
休館日 毎週月曜日
入場料 無料

電話 〇九三〇二四・〇〇〇四
交通 西鉄与原バス停下車、徒歩三分。
開館 九時三十分~十七時
休館日 毎週月曜日
入場料 無料

所在地 豊前市大字鳥井畑字若山
展示 仏像、神像六十点、密教絵画十五点、法具三十点、祭具三十点、古文書五十点、修験道遺品六十五点、経筒など発掘品百点、あわせて約三百五十点。その半数が、国、県の指定文化財に指定されています。

交通 西鉄八屋バス停から求菩提山行バス乗車、終点登山口下車、徒歩十分。
開館 九時三十分~十六時
休館日 毎週月曜日
入場料 無料

電話 〇九三〇二四・〇〇〇四
交通 西鉄与原バス停下車、徒歩三分。
開館 九時三十分~十七時
休館日 毎週月曜日
入場料 無料

所在地 京都府新田町与原
展示 須恵町歴史民俗資料館

交通 西鉄天神郵便局前バス停から宇美営業所行き(大分名坂経由以外)に乘車、上須恵橋下車、徒歩三十分。
開館 十時~十七時
休館日 毎週月曜日
入場料 無料

電話 〇九三〇二四・〇〇〇四
交通 西鉄与原バス停下車、徒歩三分。
開館 九時三十分~十七時
休館日 毎週月曜日
入場料 無料

新指定文化財の紹介

市では三月二十二日次の三件を新しく市指定文化財に指定しました。これで市指定文化財は十八件となり、市内には国指定四件、県指定四十五件、あわせて六十七件の文化財が指定されています。

△有形文化財▽

絹本着色

黒田二十四騎画像 二十四幅
所在地 八幡西区藤田一丁目
所有者 春日神社

縦 一五〇・一センチ
横 三七・〇センチ

江戸末期、福岡藩絵師・尾形洞霄がかいた黒田二十四騎画像。

寛永年間(一六二四～一六四四)福岡藩支城の黒崎城主・井上周防之房は、領内の春日大明神(現春日神社)に黒田長政の霊をまつり、黒田大明神となして毎年祭祀を行なったといわれるが、のち江戸末期にこの由来に基づき、福岡



藩が長政の重臣であった二十四人の肖像を、お抱え絵師にかかせ奉納したもの。

作者の尾形洞霄(愛遠)は、代々福岡藩のお抱え絵師の家柄であった尾形家に養子となった人で、流派は狩野派。彼の出身地、生没年など明らかでないが、かなり多くの絵を残しており、宮崎宮所有の「宮崎宮秋祭遷幸之図」は県指定文化財になっている。

黒田二十四騎

黒田兵庫助利高、黒田修理亮利則
黒田図書助直之、井上周防之房
毛利但馬友信、栗山備後利安、小河伝右衛門信章、後藤又兵衛基次
黒田美作一成、久野四兵衛重勝、桐山丹波丹齋、野村太郎兵衛祐勝
野口佐助一成、吉田老岐長利、村田出羽吉次、菅和泉正利、竹森石見次貞、衣笠因幡景延、益田与助宗清、堀平右衛門正信、原伊予種良、三宅若狭家義、林掃部直利、毛尾武蔵武久



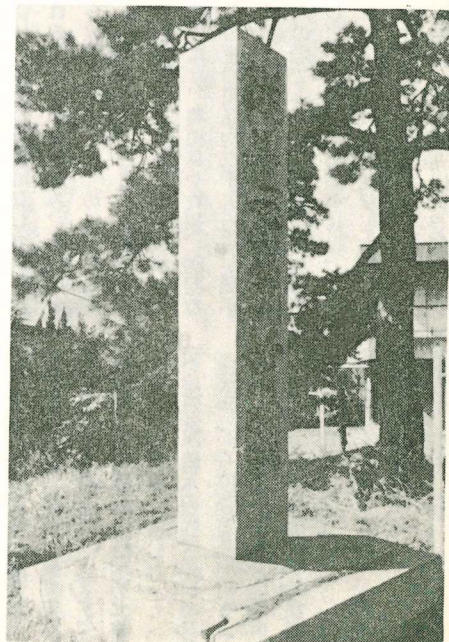
この画幅が福岡藩と春日神社の関係を示す資料として貴重であるばかりでなく、肖像画としての風格もあり、かつ江戸時代における狩野派の系譜研究上貴重である。

△民俗資料▽

色絵武者図磁器絵馬 一面
所在地 若松区白山三丁目
所有者 白山神社

縦四八・〇センチ
横五六・〇センチ

この絵馬は中央に神功皇后と御子の武内宿弥の武者図、その周囲に双龍を配した図柄の伊万里焼。内絵の武者図は絵馬によく見られる図柄であるが、外絵の龍と地紋は実に繊細に絵付けされ、伊万里色絵の特徴が十分出ている。内絵がやや大まかなので、外絵とは別人の作と推察される。



なお、当社縁起によれば、享保二年(一七一七)筑前藩が遠賀、鞍手、嘉麻、穂波の貢米積立所を若松修多羅の石崎浜に移した際、御倉奉行の肥塚次郎右衛門が奉納したものと伝えられている。

三条の国境石もその一つで、天保五年(一八三四)福岡藩最大の国境石に建て替えている。銘文は「従是西筑前国」、筆者は三川幸之進相近である。彼は刻銘にあたり、竹底彫りという新技法を採用した。これは従来の葉彫りでは自分の筆勢を石表に十分に発揮できないとして考え出したものといわれている。

江戶期の磁器絵馬で現存するのは数少なく、当時の絵馬風習の研究上貴重な資料であり、かつ伊万里色絵の特徴が十分出ているすぐれた絵馬である。

△史跡▽

三条の国境石 一基
所在地 八幡東区高見二丁目
所有者 新日鉄八幡製鉄所

形状 花崗閃緑岩 切石加工
高さ三二・〇センチ

藩政時代の北九州市域は、ほぼ真ん中から東西に福岡藩と小倉藩に分かれ、その国境には十八基の

国境石の大半が移設あるいは滅失した中で、この国境石が当時の位置に保存されていることは、藩政時代の国境を知るうえに、かつ郷土史研究上貴重な資料である。

案内

第1回北九州少年少女合唱団定期演奏会

とき 12月6日(土)18時30分～20時
ところ 小倉市民会館
入場料 300円(入場券は文化課で発売)
主催 北九州少年少女合唱団
北九州市教育委員会

新劇「セールスマンの死」公演

とき 12月8日(月)18時開演
ところ 八幡市民会館
入場料 A 1,700円(2,000円)
B 1,300円(1,500円)
カッパ内は当日券
入場券 文化課、各市民会館及び市内主要プレイガイドで発売
出演 劇団「民芸」
(滝沢修、細川ちか子ほか)
主催 北九州市教育委員会

第5回九州沖縄グラフィックデザイン展

とき 12月8日(月)～13日(土)
8時45分～17時
(土曜日は14時まで)
ところ 北九州市庁舎展示ホール(2階)
入場料 無料
内容 郷土のグラフィックデザイナーのポスターやイラストを展示。展示数約160点。

昭和四十六年十二月吉日に、堂の外を始め、参道の石段、記念碑、洗心と刻まれた手水鉢等が整備され、昔の面影を一変して居る。

尚、火除け地蔵の本尊は、砂岩の座像、高さ二十七釐である。

△こく地蔵 花崗岩 座像 船形後背共四十二釐 年代宝暦九年卯六月三日 管理者 安田フルノ 名前が変っているの、或は「虚空蔵」ではないか、と思っ問い返したが、矢張り昔からこく地蔵と称えて居たとの事である。

と止まり、其の後は何事も無かったさうである。

此の地蔵様は「咳に」靈頭がある、と言ってお詣りに来る人は、「ハッタイ粉」をお供えして拝むのださうである。そう言えば、「穀地蔵」であるかも知れない。

お願いして病気が治ったら、五色のお菓子をお礼として供える風習との事で、昔は小倉あたりからも詣りにお出でたさうである。

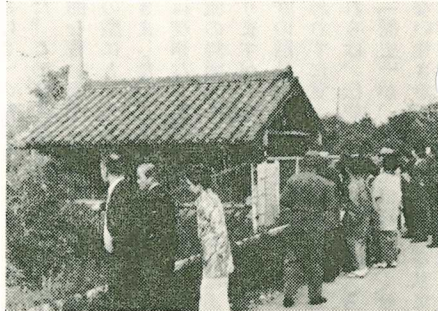
文化財めぐり雑感

小倉南区 溝口 連

「古きものがあつてこそ新しいものが生まれる」と、胸を張る度くなるのが老人の悪い癖かも知れぬが、今日文化財めぐりの面々四十五人の方々、恍惚ならぬ硬骨の諸先生とお見受けしてお仲間に加えていただいた。

先ず曲里の松並木見学、松並木といつても並木を偲ぶよすがとてない。ただ、街の真ん中の高台に古松が五、六本立っているだけ、そこで史跡指定の説明書を読んでいた。

蜀山人曰、「坂を下ると赤土の崖あり、松の並木をゆくゆく坂を上り下り、また坂を下りゆけば――」。これを読んで昔の旅行く人と松並木が彷彿と浮び、並木の風致と旅人の風情が一幅の絵となつてうかぶ。



だが現代は違う。歩くが、転げねば追つかぬ程忙しい世の中になつたと思えば合点もゆくが、車の排気ガスに松は枯れ、道は寸断されて明治生れは何とも淋しく、心の豊さまで何処ぞに転がし込んでしまった現代がいささかうらめしい。

次は寿命の唐戸水門に着くなり私は、はつと胸をつかれた。堀川開作は元和七年、今より三五〇年前のことで、当時の人間の知恵がうかがえ、時の識者の着想に頭が下る思いがした。

堀川が完成して実用化されだしたのは工事着工後一八〇年後の事であり、その間技術面経済面に幾多の困難があつた事は想像にかたくなく、それを長年月よくも乗り越えて完成させ、完成のあかつきは争つて利用したと聞く。

この堀川の着想はまた、あくまで自然に順応して、しかも自然の力を工夫利用した処に、古人の素直な知恵がうかがえて、堀川水門完成によって水害の防止と、新しいかんがい水路使用によって更に新しい耕地水田も出来たであろうし、まして米や雑荷石炭を満載

資料館陳列の郷土資料を見て、古来庶民の生活様式の一つ端をうかがい、今は無くなった私の子供の頃の生活用具を見て懐古の情をもやした。

次に国境石は環境の変化によって私には懐旧の情ゼロ、但し銘文の筆跡は別。

夜宮の大柱石は四千万年前の松柏の化石と聞いて気が遠くなり、神秘の世界をうかがい知り、しばし夢の世界を彷徨した。

なだたる旧松本宅はさすがに国指定文化財の貫禄充分。

一本松塚古墳は観察条件不備、惜しい限り、松本宅を除く保存整備総じて文化財の名に反して不備の感を抱く。(注 一本松塚古墳の見学日は、毎月第四木曜日)